

令和2年度 宝塚北高等学校 学校評価

A:よくできた(76~100) B:できた(51~75) C:あまりできなかった(26~50) D:できなかった(0~25)

領域	重点目標	令和2年度 具体的な取組	教員				生徒		保護者		担当	今年度の評価とさらなる活性化に向けて (50字~80字程度で入力をお願いします)	評価に対するコメント (評価)	
			R1	R2 (中間)	R2 (年間)	R1	R2	R1	R2					
			回答数 56	回答数 58	回答数 51	回答数 856	回答数 823	回答数 802	回答数 713					
信頼される学校づくり	効果的な情報発信	1 学校ホームページをより見やすく充実させるとともに、更新の頻度を高め、最新の情報を提供する	B	A	A	B	B	B	B	情報	今年度は教師がホームページを利用して連絡や学習支援ができるものに短期間で作成・移行し、様々な要望を受け作り直してきたため全体の構造がわかりにくくなった。現在、県のシステム変更により、また新たに作り直しを急いでいる。今後メニュー構造の再検討と内容の整理を行い、利用しやすいページにしていきたい。	A	大変見やすく充実している。ホームページの情報は、適時・適切に更新され、最新の情報が発信されていると評価できる。ただし、生徒・保護者の評価結果を分析し、差異の解消に努めていただきたい。北高の魅力あふれるホームページを期待する。わかりやすいというのは大前提である。保護者から見て、安心感のある学校運営がされていることがよく分かる。	
		2 多くの生徒が前面に出て活躍する場を提供するなど、学校説明会を充実したものにす	A	A	B	/	/	/	/	総務	第1回が中止、2、3回も人数制限を行う等の制約を余儀なくされたが、開催側参加側両方の理解協力により実施することができた。来年度はHPなども活用しながら、対面ならではの学校説明会を計画していきたい。	B	対面による学校説明会のみならず、オンラインによる説明のデータも整備できれば、より効果が高まると考えられる。説明会の充実を期待したい。	
	危機管理体制の確立	3 防災HRの実施や内容を工夫した避難訓練を通して職員・生徒の防災への意識の向上をさらに図る	B	B	B	B	B	/	/	総務	避難訓練は避難経路の確認にとどまり、その目的も周知できなかったため、目的と方法が見合ったものを企画する必要がある。震災追悼行事に合わせて、震災体験をプリントにし配付したことは、一定の効果が得られた。	B	生徒の昨年度と今年度の評価結果の差異が大きい点を分析し、より実効性の高い避難訓練の計画・実施に努めていただきたい。被災地とのオンラインミーティングなどでもできるのではないかな。	
		4 いじめ対応チームを中心に職員間の連携をさらに密にし、生徒情報の共有を図り、いじめに対する未然防止、早期発見、早期対応、再発防止体制づくりを確立する	B	B	B	/	B	/	/	生徒指導	いじめアンケートに加え、心の健康に関するアンケートも追加した。各学年、科、部とも情報共有を徹底した。小さなサインを見逃さない体制づくりを更に強化したい。	B	引き続き、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、再発防止体制づくりに向けた組織的な取組を期待したい。心の健康については、非常にデリケートな問題であり、学校としての体制づくりをお願いしたい。	
	地域・家庭・関係機関との連携	5 三者懇談、保護者懇談会を通して学年・学級の取組に理解を図り、保護者との連携を深める	B	B	A	/	/	B	B	各学年	休校措置によって5月の保護者会を7月に実施。今後も計画されている保護者会等を時機に合ったものにし、学校・学年の取り組みへの理解を図りたい。保護者との連携を深めるとともに、学年の取り組みへの理解を図りたい。三者懇談、保護者会に加え、適宜保護者と連絡をとり、生徒の状況把握、学校の指導内容の共有に努めたい。	A	三者懇談及び保護者会の機会の有効活用に加え、より一層の連携を通じた協力体制づくりに努めていただきたい。オンラインミーティングの活用も有りだと思ふ。	
		6 ボランティア清掃や学校評議員会等を通して、本校の取組への理解を図り、地域との連携を深める	B	B	B	/	/	/	/	総務	地域清掃は中止となり、地域との交流ができなままに終わった。来年度以降、違った形、もしくは方法を考える必要がある。評議員会は時期を遅らせて開催することができた。	B	地域清掃による交流の再開と学校評議員会における情報交換のより一層の充実を期待したい。	
職員・授業力・資質の向上	7 教科指導力向上委員会と連携し、研究・公開授業や大学の入試問題検討等を通して、教員の授業力の向上を図る	B	B	B	B	/	/	/	教科指導力向上	ICTを活用した研究授業や主体的な学びを意識した研究授業を実施した。次年度以降も、授業研究・実践に取り組み、職員の授業力・資質の向上につなげたい。	B	ICT機器の効果的な活用を含め、組織的・継続的な授業改善の推進による教職員の資質向上を期待したい。		
	8 新学習指導要領や新大学入試などの実施に向けて、職員研修の充実に取り組み、教職員の意識および指導力の向上を図り、本校のカリキュラムマネジメントの実現に取り組む	B	B	B	/	/	/	/	教務情報	新学習指導要領の実施に向けて、カリキュラム全体の見直しを進めていき、新たな課題を整理することができた。新大学入試に向けた職員研修は、十分に実施できたとは言えず、来年度の課題とした。	B	カリキュラム・マネジメントの実現に向けて、学校内外の資源を有効活用した校内研修の充実を努めていただきたい。		
	学力向上と進路実現	9 3年間を見通した計画的な補習・補充やSHRでの小テストを実施し、生徒の学力向上を進める	B	B	B	/	B	/	B	進路指導・学年	(1年)基礎学力の定着と伸長のため、引き続き取り組みたい。 (2年)引き続き、学力向上のための指導をしていきたい。 (3年)補習・補充等の目標、内容を明確にし、生徒がより活用しやすいものにした。 (進路)今年度は先が見通しづらかったが、今後は、1年間を見通して補習計画を生徒に提示することが大切であろう。	B	学力向上の活性化の取組について、より具体的な目標設定と教職員の足並みを揃えた実践に期待したい。できるだけ新しい情報を取り入れた進路指導が求められる。	
10 生徒の学力向上に向け、量、質のバランスに配慮した課題を課すことに留意する。		B	B	B	B	C	B	B	各学年	(1年)基礎学力の定着と伸長のため、引き続き取り組むとともに、質と量について全体を見る必要がある。 (2年)学習習慣の定着を図り、学力向上へと繋げたい。 (3年)生徒にとって適切な量や内容の課題となるよう、教科間の一層の連携を図りたい。	B	生徒のC評価について、原因を分析するとともに、改善に向けた組織的な取組の推進策の検討が必要であると考えられる。		
11 「家庭学習の記録」を通して家庭学習の実態を把握し学習指導に生かす。		63.0	B	B	50.3	/	66.2	/	各学年	(1年)学習習慣の定着を図り、個々の変化に気付くきっかけとなるように今後も取り組みたい。 (2年)学習習慣の定着を図り、学力向上へと繋げたい。 (3年)生徒自身が学習状況の把握や計画の立案に活かせるよう促していきたい。	B	学習習慣の定着を図るための具体的な手段・方法を示し、情報共有しながら取組を進めていただきたい。		
総合的な学習(探究)の時間の充実	12 目標(取り組む姿勢、社会性、考える力、発表する力)を明確にし、発表会を実施することで内容の充実を図る	B	B	B	/	B	/	総合学習	2年生普通科では、これまでの授業内容を大きく変更し、1年を通じて自分の定めたテーマを「探究」する形で行った。最後にはポスターセッションも実施することができた。	B	2年生普通科での実施方法の変更によって、生徒の評価結果にもたらされた影響を分析し、次年度の取組につなげていただきたい。このような学習を経験できるのはよいことだと思う。			
進路指導の充実	13 生徒個々が将来の姿を考える機会となる講演会等を企画し、自己実現をめざすキャリア教育の充実を図る	B	B	B	/	B	B	B	進路指導	講演会やガイダンスは、ほぼ予定通りに実施することができた。今後は、その取り組みを保護者にも知っていただく工夫が求められる。	B	今後の課題が的確に抽出されており、保護者への周知に関する創意工夫に努めていただきたい。		
	14 利用しやすい進路指導室をさらにめざし、面談や進路希望調査を通して1年から進路に対する意識の向上を図る	B	B	B	B	B	/	B	進路指導	進路指導室の利用については、例年通りであった。次年度に向けて、進路相談をさらに充実させることが大切であろう。	B	教員と生徒の間における評価の差異を分析し、具体的な改善策を検討していただきたい。		

令和2年度 宝塚北高等学校 学校評価

A:よくできた(76~100) B:できた(51~75) C:あまりできなかった(26~50) D:できなかった(0~25)

領域	重点目標	令和2年度 具体的な取組		教員		生徒		保護者		担当	今年度の評価とさらなる活性化に向けて (50字~80字程度で入力をお願いします)	評価に対するコメント (評価)		
				R1	R2 (中間)	R2 (年間)	R1	R2	R1					R2
				回答数 56	回答数 58	回答数 51	回答数 856	回答数 823	回答数 802					回答数 713
創造的な校風の樹立	演劇科の充実	15	1, 2年の「朝読」の時間や特別講義等の実施によって、読解力や思考力の向上にさらに努める	B 67.9	B 68.7	B 69.5	/	B 62.4	/	B 69.2	演劇科	1学期は休校や分散登校等の影響で「朝読」を実施できなかったためか、演劇科図書が十分に活用されなかった。「特別講義」や通常の授業とも連携をはかり、書籍に親しむ環境をより整えたい。	B	朝読以外の活動においても、演劇科図書の活用を図り、読解力や思考力の向上に取り組んでいただきたい。
		16	専門科目等を通して対話力・表現力を身につけ、コミュニケーション能力の育成をさらに図る	B 72.5	B 72.9	B 73.7	B 74.6	A 79.5	A 84.2	A 75.1	演劇科	生徒の評価が例年以上に高いのが特徴的である。感染症拡大防止のため、専門科目にも制約が生じたが、対話力・表現力を見直す機会となり、積極的な取り組みにつながった。今後も継続していきたい。	A	三者ともに、相対的に高い評価結果となっており、とりわけ生徒の評価結果の高い要因を踏まえ、取組の継続につなげていただきたい。
		17	特色ある科目、特別講義、外部公演などの学びを通して、芸術への愛情を深め、調和のとれた人格の育成を図る	/	B 73.0	B 68.8	/	A 75.8	/	A 77.0	演劇科	生徒、保護者ともに評価が高い。新型コロナ感染拡大の影響を受け、外部出演などの機会が減少したが、その分、集中して取り組むことで成果を上げることができた。今後も継続していきたい。	A	当事者である生徒の評価がAとなっている点において、演劇科としての特色が発揮されていると認識できる。
	GS科の充実	18	シアトル研修を通して英語コミュニケーション能力を開発し、「世界」を意識させる	A 78.6	B 55.3	B 56.3	/	B 59.7	/	B 69.6	GS科	コロナ禍のため海外研修そのものは実施できなかったが現地とZoomを通じての実習や講義を行った。来年度はコロナ禍を契機に海外研修の在り方を検討したい。	B	海外研修が実施できなかったのはやむを得ないが、創意工夫による英語コミュニケーション能力の向上と「世界」を意識させる取組に努めていただきたい。
		19	専門的な理数科目の授業や科目横断型授業を通して、「学び」の意識の向上を図り、自らの将来像を深く考える機会とする	A 78.8	B 73.4	A 76.8	/	A 75.6	/	B 72.3	GS科	学校設定科目「GSⅡ」を実施したがコロナ禍のため活動が一部制限された。新たに「オンラインを活用した効率的で深化した課題研究」を設定することができた。	A	一部の活動制限はあったとはいえ、オンラインを活用した取組が奏功したと評価できる。
		#	高大連携授業や課題研究等の取組を通して、自主的研究活動を促進し、思考力・判断力・表現力を育成し、学ぶ意欲を高める。	A 80.0	A 77.3	A 78.8	B 77.3	A 75.1	A 77.3	B 75.9	GS科	大学見学等にコロナ禍の影響はあったが、ある程度は取組を推進できた。来年度もオンラインを通じての連携や課題研究が予想され、対策していく必要がある。	A	GS科における学ぶ意欲を高める取組は、三者から高く評価されており、情勢の変化に応じた的確な対応の継続に期待したい。
	ふるさと貢献活動事業の充実	21	特別支援学校等との交流や地域との連携を通して思いやりの心を育むとともに、自己有用感の向上を図る	B 64.3	B 54.4	B 62.2	/	/	/	/	総務	宝塚市立養護学校との交流も12月の一回となってしまう、その上対面ではなく、ビデオを交換するものとなった。しかし、参加した1年生生徒たちにとっては有意義なものとなったので、来年度以降もどのような形であれ、続けていきたい。	B	ビデオ交換であっても一定の効果が得られているようであり、今後も実施方法の検討を継続的に進めていただきたい。
国際交流事業の充実	#	提携校等との交流を通して、世界の中での日本や自分の立ち位置を考え、日本人のアイデンティティについて考える機会とする	B 55.5	C 49.2	C 47.8	/	/	/	/	国際交流	新型コロナウイルス禍のため、パース・マレーシアの姉妹校との交流は実施できなかったが、再開時に備えて、それぞれの担当者とのコンタクトを保つよう心掛けている。	C	実際の訪問・対面による取組のみならず、ICT機器を活用したオンラインでの実施を含め、様々な可能性を探っていただきたい。	
豊かな人間性の涵養	規律ある態度の育成	#	登下校のマナーや校門指導・授業開始時の挨拶や身だしなみの指導を通して、北高生としての意識の向上を図る	B 63.7	B 58.8	B 67.0	B 56.0	B 67.4	B 71.6	B 71.3	生徒指導	登下校時は勿論、挨拶、マナーについて、社会の一員としての自覚を。地域の方々との協調を進める必要があると思われる。	B	地域との協調は重要な課題といえるが、どのように進めていくのか、具体的に検討を進めていただきたい。
	人権教育の推進	#	HR・「総合的な学習の時間」・行事等で、障害者や高齢者等異世代の方との交流を通して、人権意識の向上を図る	B 58.9	B 58.4	B 62.3	B 61.5	B 60.5	B 66.9	B 60.9	人権推進	「総合的な探究の時間」やボランティア活動で一部の生徒は高齢者や、障がい者とかかわりを持ち、様々なことを感じたり、考えたりする機会が得られた。全校生徒での講演会の企画が難しいので、学校全体でどのように取り組んでいくかが課題となる。	B	人権意識の高揚には多様な経験・交流が有効であり、教育活動の全体を通じた取組として実践していただきたい。
	図書館利用の推進	#	「図書だより」をはじめ様々な方法で、図書への興味関心を高め、図書館の利用を啓蒙し、利用頻度の向上をさらに図る	A 86.3	A 81.6	A 81.0	B 60.6	B 65.9	/	/	図書	図書委員のおかげで、充実した「図書委員便り」、POP等の作成、図書の廃棄処理などが出来た。また引き続き「図書だより」、時事に応じたポスター作成など、生徒の興味を引く情報を発信していきたい。	A	積極的な情報発信は高く評価されるが、生徒の評価結果との差異を分析し、取組の改善に結び付けていただきたい。
	保健・健康教育の推進	#	保健だよりや講演会等を通して、保健・健康教育の充実を進め、自分自身を大切にすることの育成を図る	B 69.0	B 70.7	A 72.2	/	B 65.4	/	B 59.5	保健	保健だより(すみれ)を毎月発行、今年度は臨時休業期間中も臨時号を発行した。今後もテーマの精選、内容の充実を図りたい。講演会についても、命を大切にできる・自尊感情を高めるような内容で企画したい。	B	積極的な情報発信や取組に対して、保護者には十分伝わっていない現状にあり、その点を踏まえた対応が望まれる。
		#	キャンパスカウンセラーとの連携を密にし、生徒に関する諸問題への早期対応ができる体制を整え、研修等を行う。	B 69.7	B 71.3	B 73.0	/	/	/	B 61.2	保健	今年度はカウンセリングの希望者が増加した。回数増加を要請、なんとか対応できた。来年度も回数増加を要望した。職員とカウンセラーとの連携をすすめ、カウンセリングの円滑な実施を図る。	B	カウンセリングのニーズは、今後も増加が見込まれる状況からも、必要な体制整備に努めていただきたい。
生徒会活動の充実	#	学校行事や集会等、生徒自らが企画・運営する場を与え、自主的に考え、活動する機会の充実をさらに図る	A 76.3	B 74.8	B 72.2	B 61.5	B 62.1	/	/	生徒指導	生徒会執行部だけではなく、全生徒が生徒会員という自覚を持たせる必要がある。行事を初め、生徒会の主体性を高めていきたい。	B	教員の評価が高いのに対して、生徒・保護者が低い点に留意しながら、生徒会活動に関する主体性の向上に取り組んでいただきたい。	
SSHによる特色ある学校づくり	SSHプログラムによる学校教育活動の活性化	#	学校では、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校として、特色ある教育活動が行われている。	/	A 78.7	B 74.3	B 67.7	B 70.6	B 70.2	B 68.0	SSH	GS科における学校設定科目「GSⅠ」「GSⅡ」を軸に、特色ある教育活動を行えた。来年度は、その成果を普通科の「総合的な探究の時間」等に活用していきたい。	B	研究指定の受け入れは、学校の活性化には非常に有効であり、機会の積極的な活用と保護者への取組の周知にも努めていただきたい。
		30	スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定を受けていることは、学校の教育活動にとって効果的である。	/	A 75.7	B 72.3	B 69.5	B 68.2	B 72.2	B 70.3	SSH	今年度はコロナ禍のため、SSH事業の成果の普及が進まなかった。来年度は少しでも多くの教員にSSH事業を通じて外部での研修会への参加を促したい。	B	SSH事業を通じた校外研修への積極的な参加を促し、成果の還元に留意した取組を推進していただきたい。
	SSHプログラムによる知的探究心の育成	31	本校のSSHプログラムが、数学や理科などに対する興味・関心や知的探究心の育成につながっている。	/	A 75.2	A 75.7	B 67.1	B 65.7	B 69.8	B 64.3	SSH	JSECや県総文で受賞することができた。普通科「総合的な学習の時間」の研究班が外部発表会で評価された。「五国SSH連携プログラム」にも普通科生徒が参加している。来年度も多くの生徒の探究心の育成を図りたい。	B	外部のコンテストや発表会等への積極的な参加を推進するとともに、より多くの生徒に波及するような取組にも留意していただきたい。
	SSHプログラムによる学力向上	#	本校のSSHプログラムが、学力の向上につながっている。	/	B 70.5	B 69.3	B 66.5	B 60.4	B 66.5	B 61.8	SSH	GS科において課題研究の成果を推薦入試に利用する生徒が増えた。難関大の医学科にも推薦入試での合格者を出すことができた。SSHプログラムが着実に新入試に対応できていると考えている。	B	SSHプログラムの着実な実施により、さらなる教育活動の充実とその成果の発現に期待したい。